



★2021年7月～9月の予定★

【事務所関係者】

アンマン勤務

(JICAヨルダン事務所内)

宮原 千絵 所長(ヨルダン事務所長兼務)

柳 竜也 次長(ヨルダン事務所次長兼務)

今村 誠 職員(ヨルダン事務所兼務)

洲鎌 かおり 職員(ヨルダン事務所兼務)

高島 淳 企画調査員

宮越 麻衣子 企画調査員

高井 史代 企画調査員

【公休日】

7月 19日～22日 犠牲祭

8月 10日 ヒジュラ暦新年

※上記は、イスラム暦のため、変更になる可能性があります。

「アハバール・カシオン」

～名前の由来について～

「アハバール」とはNewsを意味するアラビア語。「カシオン」とはダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名前です。

◇アハバール・カシオンのバックナンバーは以下URLよりご覧いただけます。

<https://www.jica.go.jp/syria/office/others/newsletter.html>

●事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

本号では、下記活動をご紹介します。

●シリアJICA帰国研修員同窓会 2020年度活動報告：

「知的障害児童特別教育施設児童への学習支援教材・遊具提供」

●レバノンJICA帰国研修員同窓会 2021年度活動報告：

「日本文化絵画コンテスト」

●レバノンJICA帰国研修員 活動紹介：

「救急・大災害医療セミナー」フォローアップ協力の第1回ワークショップ

●レポート：「MENA地域のエネルギー・電力政策動向について」

●シリアJICA帰国研修員同窓会 2020年度活動報告

「知的障害児童特別教育施設児童への学習支援教材・遊具提供」

子どもたちは私たちの人生において幸せの源であり、明るい未来への希望です。彼らの笑顔は美しさそのものであり、彼らを抱きしめるたび喜びと親愛を感じます。子どもたちの騒ぎ遊びまわる音の無い家は魂の無い家のようなものであり、彼らに夢を託して教育し、育てる両親や家族にとって彼らの成長は喜びの源です。

しかし、中には知的障害やその他の障害等、自分の命や将来、そして家族の生活に影響を及ぼす深刻な健康問題を抱えて生まれてくる子どもたちがいます。そのような問題に苦しむ子どもたちを支えるべく、保護者たちはそれぞれの状態や能力に適したリハビリを受け、遊び、学習する事が出来るよう、特別支援センターや学校へ子どもたちを通わせています。

そのような障害を持つ子どもたちの表情に笑顔が咲き、喜びが浸透するように、シリアJICA帰国研修員同窓会(JAAS)は2020年度、ダマスカスにある知的障害児童特別教育施設の児童へ学習支援教材・遊具等を提供しました。生活のあらゆる側面に影響を及ぼしたシリア内戦下では、社会が発展する余地が無



写真1:学習教材に集中して取り組む様子



写真2:様々な年代でみんなで遊ぶ様子

く、他の多くの施設同様、同施設は適切な学習環境の確保に苦しんでいました。しかし、JAASの学習教材の提供後、児童たちは生き生きと楽しそうに学習教材を使う姿や、ブランコやおもちゃを使って嬉しそうに元気よく遊ぶ姿を見せてくれるようになりました！！(写真1と2)。教

員たちもより多く児童らと意思疎通を図る事や、特別な学習教材を用いてより簡単な方法で児童に情報を伝える事が可能となりました。

ある空間の中で子どもたちが成長する機会を生み、共同と兄弟愛に基づく社会を築くことが可能である、という事に気づかなければならないのだと思います。

我々は団結と愛情により、阻害されてしまっている心を支え、親密さと愛情の

(マラハ・モラッド シニア・プログラム・オフィサー)

●レバノンJICA帰国研修員同窓会 2021年度活動報告

「日本文化絵画コンテスト」

レバノンJICA帰国研修員同窓会(LEBA-JICA)は、日本文化絵画コンテストを毎年実施しており、4月6日に第7回となるイベントが実施されました。昨年度、コロナウィルスの感染拡大により小中学校が長く休校あるいはオンラインによる遠隔教育が行われたため、今年4月まで実施を見合わせていました。今回、ベイルート市内のアシュラフィーエ地区にあるTabaris公立校が対象校となりました。7歳から15歳までの50人の子ども



写真1:子どもたちの作品

ちが日本をテーマとした水彩画に挑戦！見事な作品が出来ました！！(写真1)。

この中で9点が受賞作品となり、4月27日にLEBA-JICAのジャウダット・アブ・ジャウデ会長から子どもたちに表彰状と画材が贈られました(写真2)。

経済の悪化や新型コロナウイルスの感染の影響を受けていますが、レバノンの子供たちの想像力と活力には目を見張るものがありました！

(ゼイナ・カラーフ 在外専門調整員)



写真2:LEBA-JICA会長(写真右)から子どもたちへ表彰の様子

●レバノンJICA帰国研修員 活動紹介

レバノン「救急・大災害医療セミナー」フォローアップ協力の第1回ワークショップ

2020年8月4日に発生したベイルート港爆発事故による被害を大きく受けた医療機関の一つに、 карантин公立病院があります。この病院は、難民や経済的に恵まれない人々にも医療サービスを提供しており、地域社会において重要な役割を担っています。

新型コロナウイルスの感染が広がる状況の中、レバノンJICA帰国研修員同窓会(LEBA-JICA)は被害に対する支援ニーズを調査し、JICAシリア事務所と公

衆衛生省、 карантин公立病院間の調整に奔走してくれた結果、フォローアップ協力の形成につながりました。

現在、レバノンは非常に厳しい経済状況に置かれていますが、同国に踏みとどまって医療サービスの提供を続けている医療スタッフが存在します。これらの医療関係者を対象に、JICAとLEBA-JICAはフォローアップ協力を通じて、4月9日と10日に第1回目のワークショップを開催しました。新型コロナウイルスに対する感染

対策の強化を目的として、公衆衛生省の



写真1:会場の様子

Dr. Michel Kfoury (2007年度集团研修「救急・大災害医療セミナー」参加者、写真3)とカランティナ公立病院のDr. Youssef Kairouzが中心となって研修内容を調整し、2日間の日程で約80人の医療関係者がワークショップに参加しました。今年7月末に、第2回目のワークショップが計画されており、医療用検査機材の使用にかかるトレーニングが実施される予定です。

(ゼイナ・カラーフ 在外専門調整員)



写真2:防護服の着用説明



写真3:公衆衛生省Dr. Michel Kfoury (2007年度JICA研修参加者)

●レポート

「MENA地域のエネルギー・電力政策動向について」

MENA (Middle East & North Africa) 地域では、殆どの国がエネルギー/電力供給の大部分を天然ガスに依存しており、産油国でもその傾向は顕著で、石油は外貨獲得の為の商品といった様相である。石炭は、モロッコ、イスラエル及びトルコを除いて、殆ど使用されていない。それでも世界で進む脱二酸化炭素の潮流は、MENA地域にも大きな影響を与えており、石油資源で賄っているエネルギー供給の半分程度を、調達価格が大幅に下落した太陽光発電 (PV) で補填する計画が急激に進んでいる。水資源の乏しいMENA地域では、地下水汲み上げや海水淡水化に多くの電力が必要であることから、現在天然ガスに依存している水供給用の電力も、その多くが近い将来、PVで賄われるようになるだろう。

しかしながら、MENA地域の再生可能エネルギー活用割合目標は、多くても40%程であり、主力のエネルギー/電力供給源は天然ガスであることに変化は起こらないと考えられる。また、日本や西欧諸国では既存原子力施設の

縮小を図っているのに対して、MENA地域では、再生可能エネルギー活用に伴うエネルギー供給の不安定さを補填するため、原子力施設を一定程度、新規整備する国が増えていることには、複雑な思いも交錯する。

このほか、豊富な石油資源を持ち豊かなGCC諸国では、国民1人当たりのエネルギー/電力消費量が世界で最も多いレベルであるのに対して、エネルギーの殆どを輸入に依存している多くのMENA諸国では、それらの消費量が少ないという事実は、MENA地域の抱える極端な格差を体現している。この格差を補完し、最低限のエネルギー・電力消費を、地域全ての国で可能とするためにも、域内でのエネルギー/電力の交互活用体制が強化されることを望みたい。

電力消費に関しては、程度に差はあれ家庭用電力の占める割合が高く、その中でも特に冷暖房費の占める割合が非常に高い。暑さの厳しいGCC諸国では、年間を通じ冷房が必要な状況は理解できるが、補助金削減による消費軽

減効果を図るだけではなく、熱効率の良い建築設計や断熱材の活用など、より踏み込んだ対応が必要だろう。

シリアに関しては、国民1人当たりのエネルギー/電力消費量が非常に少ない上、消費は年々減少傾向にある。2011年以降の紛争で、エネルギー関連施設の多くが50%程しか稼働しておらず、欧米諸国による経済制裁でエネルギー輸入も困難なため、日常的にエネルギー不足に陥っている。停電も日常的である。電力料金は固定料金制で非常に安価で、運営維持費も賄えない状況にあるが、経済状況を考えると値上げも困難だろう。このような状況の中、政府は破壊された石油資源によるエネルギー関連施設の修復を切望しているものの、シリアでも今後否応なく、再生可能エネルギーの推進を迫られることは明白である。シリアは、PVと共に、陸上風力発電のポテンシャルも高いとの情報もあり、将来的にPV事業と合わせて調査されることが望まれる。

(高井史代 企画調査員)

ホームページ

www.jica.go.jp/syria/index.html

お問い合わせ先 (E-mail)

sr_oso_rep@jica.go.jp

お知らせ

アハバール・カシオンへのご寄稿、ご感想およびお問い合わせはメールにて受け付けております。

編集後記

日本人職員が勤務するヨルダンでは、2月下旬から5月上旬まで続いた金曜の終日ロックダウンが解除され、外出禁止時間も段階的に緩和されてきております。

季節は徐々に夏へ向かい、民家の軒先から桑の実(トウトウ・シャーミー:283号記事参照)や無花果、枇杷、杏、葡萄等さまざまな果樹が見られます。春先まで見られたバラの季節は終わり、ジャスミンの季節となりました。その香りは、マスク越しでも、ふと足を止めてしまうほどです。(洲鎌)